

自己評価報告書(最終報告)

報告者

現代教育課題総合コース/
太田 直也

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが（平成24年8月28日）、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

授業内容:報道によれば、「目先の」教育実践力を大学院で養成することは否定されたようである。遅効性であっても後に揺るぎない教育実践力につながるような(その基礎となるような)、すなわち、「教室ですぐに使える」といった種類のものではなく、常に頭と心が連動するような内容にしたい。例えば、文化論を論じるにあたっては、文化の表層的事実・現実の解説ではなく、その背景を想像、考察する機会を可能な限り設けるつもりである。

2. 点検・評価

揺るぎない教育実践力につながるような(その基礎となるような)内容を意識した授業構成にしたつもりである。とりわけ「人間と文化」「現代教育人間論」においては自らと受講者が「思考すること」に重きを置いたが、いずれも受講者からは好評であった。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- ・学生及び大学院生を「お客様」と捉えることはしないが、(当然のことながら)彼らを人間として尊重する姿勢は堅持する。
- ・受講生の知的好奇心に応えるべく、いかなる質問にも真摯に対応する。
- ・学生・大学院生の相談にはいつでも応じる(学生指導に関してはオフィスアワーに限定にしない)。

2. 点検・評価

- ・学生・大学院生の間で様々な問題が起きたが、人格を傷つけることなく対応できたと自負する。
- ・学生・大学院生の相談には、オフィスアワーにこだわらず、いつでも応じることができた。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

- ・第二次大戦期のディラン・トマスの作品について考察を続ける、大きなテーマであるため、時間をかけたい。
- ・継続中の『都市論』(仮)の翻訳作業を終わらせる。
- ・来夏出版予定の『イギリス文化事典』(仮)の編集を行う。

2. 点検・評価

- ・第二次大戦期のディラン・トマスの作品について考察を続けた、大きなテーマであるため、時間をかけたい。その成果の一部は次年度公にするつもりである。
- ・継続中の『都市論』(仮)の翻訳作業を終わらせた。次年度発刊予定。
- ・今夏出版予定の『イギリス文化事典』(仮)の編集を行った。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

- ・基本的には権推進委員会、学生支援委員会における責務を果たしたい。
- ・定員確保のための「草の根運動」は継続する。

2. 点検・評価

- ・人権教育推進委員会、学生支援委員会における責務を果たした。前者では講演会関係、後者では学園便り関係の仕事を中心に行った。
- ・定員確保のための「草の根運動」は継続した。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- ・関西ウェールズ会等で、文化活動には積極的に参加し、その発展に力を尽くしたい。
- ・アイルランド共和国のSt. Brigid's Schoolとの交流は継続する。
- ・震災被害者に対する支援は継続する。

2. 点検・評価

- ・関西ウェールズ会等で、文化活動には積極的に参加した。特に若い会員に対しては可能な限りのアドバイスをした。
- ・アイルランド共和国のSt. Brigid's Schoolとの交流は継続したが、連携して何かを行うには至らなかった。
- ・愛知県の小学校(西保見小学校、岩田小学校)と外国籍児童の支援について話し合う機会を持った。
- ・震災被害者に対する支援は継続した。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)